

勉強会かお祭りか

平塚北 山梨熙一郎

地区大会をいかに有意義なものとするかは、ガバナーの大きな悩みの一つではなからうか。大会を勉強の場とするか、お祭りと考ええるかの二つに大別される。

前者は、お金のかからないという経済的メリットはあるものの、勉強会である地区協議会と連続して開催してもよいということから考えると、四大奉仕のアッセンブリーは、かち合う結果となる。もつとも、地区大会ではアッセンブリーといっても、各クラブの業績発表などに充てればよいことではあるが。そのためには、地区大会は少なくとも、ガバナーの公式訪問が全部終了したあとに、開催すべきではないだろうか。

後者のお祭り志向は、興味を引き面白味を加えるためお金がかかることは考えられるが、会員の動員数では前者に勝る。日本の地区大会の日程をみると、ロータリー年度前半に開催されるところが多いように思われるが、私はむしろ、地区協議会を年度前半に開催し、次年度の

指導者に六カ月の勉強の期間を与え、後半に地区大会を開催して、その年度のクラブ業績発表、表彰、討議を行ったらよいのではないかと考えている。

いずれにしても、短期間（二日が規約により最短期間）で、お金をなるべく少なく、しかも会員が多数参加してくれるようなよいプログラムを立案するのが重要である。

言うは易く行うは難しいことではあるが、ガバナー並びに大会実行委員会に、少しでも今日の時流にマッチした企画を立てられるよう望みたいものである。

（第二五九地区 神奈川県 内科医）